

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20年 4月 24日
事業所名	アットホームあいり
ユニット名	1階
事業所番号	2370400992
記入者名	職名 ホーム長 氏名 舟木律子
連絡先電話番号	

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念と共有</p>				
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>事業所独自の理念として「女性は女性らしく、男性は男性らしく、人間は人間らしく」又、5つの言葉「誠実・謙虚・感謝・尊敬・情熱」と利用者の尊厳を守る様理念としている。</p> <p>利用者さんが一日一日を楽しく過ごし我が家のように暮らしていただけるホーム。</p> <p>入居者一人ひとりが、その人らしく活々と暮らせる生活空間とふれ合いが持てるアットホームな環境を理念としている。</p> <p>利用者が地域の一員として生活できるように働きかける事も含まれている。</p>		<p>まだ足りていないと思う。</p> <p>職員同士が理念について話し合い取組んでいく必要がある。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念は玄関や事務所の目につく所に掲示して、職員の採用時には一つ一つ丁寧に理念や理念が出来るまでの思い等、説明している。</p> <p>全員の職員が理念を共有しているとは言い難いが、入居者の「その人らしく」を心がけ個々に合った支援ができています。</p> <p>管理者も含め、より良いサービスを提供するにはどうすれば良いかをミーティングだけではなく折に触れ話し合いを行いサービスを提供している。</p>		<p>理念を共有することや、理解し、確実に実践に向けて取り組めるよう、確認しあえる場とし申し送り時やミーティングの際に理念の唱和を実践し共有していきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>地域の中で運営推進会議やいどばた会議を通し理解して頂ける様に取り組んでいる。</p> <p>具体的に地域との関わりとして、バーベキューへの参加を呼びかけたり、餅つきには餅を配ったりしている。</p> <p>町内会、老人会などを通し地域への働きかけも行っている。</p> <p>家族の方へは毎月お便りを送り、利用者生活状況をお知らせしている。又、その中には地域との関わりや戸外活動も記されている。</p> <p>その他に、年二回の家族会で話し合う時間やご契約時に理念について説明を行なっている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>「いどばた会」を通して近隣の方とのコミュニケーションは図れてきている。 施設のイベントに近隣の方を招待している。 以前に比べ職員も近隣の方と顔見知りになっており、挨拶など日常的な付き合いが出来ている。 一人で外出（エスケープ）されている利用者を見かけた近隣の方から連絡を頂ける関係になっており、地域で利用者の安全の確保が作られ、近所の方から利用者の情報を得る事もある。 近隣の方が畑で取れた作物を持ってきてくれる。</p>	<p>ホームの玄関は鍵がかかっておらず、開放されている。 その特性を活かし気軽に立ち寄る事が出来る環境作りを検討したい。 見学、遊びに来て頂ける様、声掛けや参加の声掛けに努めたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会や地域の行事、小学校との交流以外にも運営推進会議をはじめとし、法人が主体の「いどばた会」を通じて地域への関わり交流参加を行っている。 なかなか外出する機会が無く、ボランティアの方に来て頂く機会が多い。 利用者本人の交流は行事への参加程度であり十分とはいえないが、少しずつであるが地域活動に参加している。</p>	<p>ご近所、地域の方が参加されている”いどばた会”に積極的に参加するなど、できるだけ社会との関わりを持って頂き、より生き生きとした生活を支援する。 玄関先や駐車場の清掃などを通し、利用者本人が地域とのかかわりを持つきっかけを作りたい。</p>
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議や「いどばた会」を通じて介護や医療、健康体操等、情報提供や相談等を行っている。 いどばた会の開催で認知症介護についての理解が求められるようにしている。また、福祉に関わる情報を発信し地域の高齢者の生活に役立つ事が出来ている。</p>	<p>利用者と積極的に参加する。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>開所し5年目のホームであり評価の意義、評価の結果をミーティングで話し合い、自己評価をすることで振り返り、改善に努めている。 外部からの評価で指導を受けた点は迅速に話し合い改善をしている。</p>	<p>新しい職員に対し自己・外部評価の意義や目的を分かりやすく説明する場を設けたい。又、評価に対し改善すべき物には目標を立て、一つ一つ改善できる様、話し合い、その中で改善していきたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>利用者が今より少しでも地域で活躍できる場を、運営推進会議で提案したい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>市の担当者が運営推進会議への参加が困難なため、些細な事でも役所に出向くなど話を出来る機会を増やしたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>研修に参加していない職員に対しても学ぶ機会や場を設けて理解してもらおう</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>繰り返し学ぶと同時に、資料の回覧や職員同士の話し合い、論理に基づき振り返りや確認を行う必要がある。 様々な拘束や抑制がある事も学んでいきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>一方的にならず、ゆっくりと時間をとり相手の立場を考え疑問や質問、不安になりそうな事を出来るだけ引き出せる様、説明をする事に努めている。 希望されるご家族様には体験で泊まっていたい</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望が伝えられる様、雰囲気やコミュニケーションを大切に信頼関係を深められる様、努めている。 特別に要望や不満を聞き取る場は設けていないが、折に触れ要望に応じたケアを提供している。 直接、不満や苦情を訴えてくる場合は、傾聴し対応している。 ミーティングで議題にし改善に努めている。		言葉や態度からその思いを察するように利用者本位の運営に心がけたい。 ゆとりのある時間をつくり、利用者との関わりを増やし、更なる改善に努めたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ご家族の方へは毎月お便りを送り生活状況をお知らせしている。又、面会時にも普段の様子や健康状態を伝えている。 必要に応じ、電話連絡を行っている。		職員の移動（退職）については、いつも報告できていない。 家族へパスワードを発行し、アクセス可能となる ところへ写真のデータ-を置き、各家庭でプリントアウトできるようにしたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に明記されており、規定通り相談窓口を設置している。又、ご家族の方には何でも言っただけの様な雰囲気作りに努めている。 意見、不満、苦情に対しては敏速に対応するよう努めている。 年に2回の家族会は、普段耳にすることのない意見を頂ける、良い機会になっている。 ご家族が思っていること、して欲しい事等を職員にも気軽に話して頂け、職員全体で話し合い解決を図っている。		運営推進会議や家族会を活用し意見交換や交流を深める機会を多く持ち、様々な意見、要望を頂く事で向上していきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体ミーティング、スタッフミーティングを行い話し合う場を設けている。 運営者、管理者は職員の意見を聞き、取り入れるよう努めおり、職員間及び運営者との間ですり合わせた基本方針の基、具体的な行動は職員が中心になって決定されている。		話し合う「場」の提供だけに終わる事なく、話し合う事で新たに取り組む事、検討する事、改善など継続できる様にしたい。 職員同士の信頼関係を充実させ、より良い意見交換をしてきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5.人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		<p>今後は職員の現任研修だけでなく新卒者の入職も踏まえ、フレッシュマン研修のプログラム作成を考えている。又、定期的な現任研修とふり返りが必要。</p> <p>色々な職員との関わりから教えてもらうことで、幅広い技法を身につけたい。</p> <p>目標、成果TODOなど確認する書式や職員間の話し合いや経験の蓄積をするための仕組みを作りたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		<p>今後はGHだけではなく他事業所（他サービス）との交流ができる機会を検討してみたい。</p> <p>様々な場所で知り得た情報等を、ホームへ持ち帰り、職員間で学ぶ場を設けサービスの向上や知識として活かしたい。</p> <p>他のGHの良い点は自GHでも取り入れ、良くない点は改善していきたい。</p> <p>積極的に参加する。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	話しをいつでも聞いてくれる姿勢を持ち整えてくれている。コンソーシアム（研修会）終了後に約30分ほど、自由に話す事が出来る機会があり、ストレスを軽減する良い機会となっている。食事会等を開催し、話しが出来る場を設けてくれている。 休憩を取っている。健康診断の実施。		ストレス対策の勉強会も予定されており積極的に参加したい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の努力を評価した上で給与や賞与において評価される。 スキルアップできる様、支援している（研修への参加）。 ミーティングで話し合い、反省と勉強会を行うことにより向上の推進を図っている。 ミーティングで課題を出し合い記録することで「どうすれば」「何故」と常に考察し働いている。 経営者が出席する 全体ミーティングと職員のみスタッフミーティングを行っている。 半期に一度全正職員の面談を行い職員の状況を把握している。		スキルアップするには、各職員が自ら学びたいと思ひ実行する事で向上につながると思う。 「気づき」に取り組んでいきたい。 いつも同じメンバーでなく、もっと多くのスタッフにも参加してもらい遠慮のない意見交換が出来たらと思う。 職員が自身の現状、課題を目に見える形に整えることで計画的な取り組みができる。

安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前にご家族から今までの生活歴や大切にしている事、今後の要望など情報の収集に努めて、入居後の環境の変化によるダメージを少なく出来るよう努めており、入居後も職員間で情報の共有をしている。 家族から今までの生活様式を聞き、本人自身からも聞き入れ、安心して心が休まる様、対応している。 センター方式の書式などを基に、本人の希望や気持ちに添った関わり方で信頼関係を築いている。 訴えに傾聴し可能な限り答えられるように対応している。		時間を充分に取れず、ゆっくり話を聞けていない場面もある。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	コミュニケーションを図りながら、信頼関係を築いていけるよう努めている。 いつでも電話や来訪等が出来る環境にし、密に関われるよう働きかけている。 主にホーム長を中心に家族が来訪した際、近況を報告している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>同事業所内のディサービスやケアマネと協力している。</p>		<p>同事業所のデイサービス グループホーム入居の流れが多くなっており、情報のやり取りを密に行い、初期対応を決定する手がかりとし、職員の対応を統一する。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>希望者には体験宿泊を行っている。契約前、あいの理念や方針をご家族に納得、理解していただける場を持つ。</p> <p>入居前に遊びに来ていただけるよう働きかけたり、ご本人が入院中であれば見舞いに伺う。</p>		<p>職員が入居前に新入居者に会える機会がほとんどないので会える機会を工夫をする。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>謙虚、感謝、尊敬の気持ちを忘れない。</p> <p>利用者は人生の大先輩、教えてもらったり学ぶべき点がたくさんある。</p> <p>喜怒哀楽に至った言動、状況をケースや申し送りを通じ、職員間で共有する事で安楽な生活を追及している。また利用者の持つ知識、技術を教えてもらったり人間関係そのものを学ぶ事もある。</p>		<p>「何でだろう」と相手の立場になったり「どうしてだろう」と物事を考える事が出来るような取り組みを考えると共に、利用者が持つ力が発揮できる環境を整える。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族の不安や、未だ受け入れられない部分に関して、共に気持ちを共有し今後の支援についてコミュニケーションを図る。</p> <p>家族あるいは親族が増えたと思いきわを大切にしている。</p> <p>不安や負い目などの気持ちを家族が感じている時は職員、運営者が傾聴、共有した上で改善策を探っている。</p> <p>ご家族より手紙や野菜、果物、日用品などと共に感謝の言葉が伝えられ職員も活力となっている。</p>		<p>ご本人の状況を伝え、介護が上手くいかない時は相談しながら理解して頂き、ご家族の力も借りてケアを進めていく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族参加型のバーベキューや持ちつきなど、利用者が家族と楽しめる環境を作っている。 毎月の報告や来訪時を活用して、良好な関係を築く上で一助となるよう情報提供を行っている。		それぞれの立場や環境を十分に理解し、伝えたい気持ちや言葉をご本人に代わって伝える様に努める
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会できる様な環境になっており、友人や昔住んでいた親しい人の来訪は大歓迎で受け入れている。 家族へ利用者の友人へも入居を知らせていただけるように働きかけていることもあり、来訪や電話などでつながりが維持されている。 同事業所のデイを利用していただ方には、入居後も継続してデイを訪問している。		会話の中に馴染みの人や場所の話を取り入れ思い出して頂き、思い出の場所や興味のある場所へ行くよう情報を収集したい。 気軽に訪問して頂ける様な環境作りに努める。 GHに入居した事で、人と場所の関係が途切れないような支援に努めたい。 そのものズバリの環境が困難でも外食や観劇など、類する経験を提供する。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ユニット間に囚われる事なくより良い関係が図れるよう、持てるよう配慮する。 認知症の進行や性格からコミュニケーションがうまく図れない方に対し職員が間に入り支援する。 職員が間に入ることにより、コミュニケーションの輪が広がり、穏やかな雰囲気ですごせるように努めている。 利用者の性格や相性を把握し料理の準備や会話、入浴等を一緒に行うなど、利用者間の関わり合いの場を提供している。その中で作業のやり方を教えるなど利用者同士の支えあいが生まれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>他の機関へ移られた後も、こちらからの面会や家族からの状況報告も有り、可能な限り関係を断ち切らないよう、努めている。</p>		<p>継続的な関係を断ち切らず、継続的付き合いを大切にしていきたい。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者本位に心がけ、出来ないことを中心に支援している。意向が把握しづらい方にはご家族の情報を基に、意思、希望を汲み取るよう努め支援している。</p> <p>時間や業務の都合で自分方位で行動する場面がある。</p> <p>センター方式を導入しているが進んでいない。</p>		<p>「その人らしさ」を大切にしたい生活が出来るよう、言葉や仕草から察するよう心がける。センター方式の記入と活用。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>事前に、ご家族、ご本人から情報の収集を行っている。ホームで生活する中で、得た情報についても周知し把握できる様、申し送り支援経過にも管理職だけでなく職員全員が記入を行っている。</p> <p>以前の生活の中での馴染みの物等、持ち込んでいただき前の生活との差が出来るだけ生じないよう、家族にお話ししている。</p> <p>個人別の情報ファイルを作成している。</p>		<p>スタッフや資料からだけではなく、入居前の利用者を訪問するなど、本人との会話の中から把握するよう努める。</p> <p>趣味の継続と、新たな趣味を見つけ提供したい。</p> <p>職員全てがケアプランを理解する必要がある。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者、一人一人の生活のリズムや行動のパターンを記録や支援経過表を通じて理解し把握するように努めている。 毎日の定期的バイタル測定や一般状態の観察により現状の把握に努めている。		把握に努めているが、把握して事を生かし、その方にとってより良い生活の仕方をこらかれも考えて取り組みたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居室担当を設け、定期的や必要に応じてモニタリングやカンファレンスを行い話し合い作成している。 ミーティングを中心に職員のアイデアや意見が反映された計画となっている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	居室担当の話し合いの場やスタッフミーティング等で検討している。 定期的な見直しは行っており、モニタリングやカンファレンスで新たな問題点があれば随時追加変更している。		期間が終了する前に、ご本人やご家族の要望を取り入れ、検討見直しをする必要がある。スタッフ同士、情報の提供を活発に出し合えたらいいと思う。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に日々の暮らしの様子やご本人の言葉などを記録している。内容によっては記録用紙・方法が変え情報の共有が図れている。業務日誌やケース記録における情報把握、利用者の生活面、体調面の様子観察により介護計画の見直しを行っている。 介護計画と共に、特に気をつけたいことはケースにはさみ意識付けを行っている。		介護計画に沿った記録になっていないので、今後記録の意味や目的を職員間で再度学びたいと思う。 ケース記録の改善。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>個々の楽しみ事が叶ったり、不安が軽減するように個別の外出や買物、受診の支援を行っている。訪問マッサージの実施。同事業所のデイサービスを利用しながら待機していただき、情報の交換を行ったり、馴染みの(知った?)場所や人になれるようにしている。</p>	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>娯楽ボランティアや教育機関ボランティアの協力を得ながら支援している。エスケープ時の警察との連携や、消防団から不審火などの情報を提供してもらっている。同法人内のデイサービスの利用者の来訪や、ボランティアの方に定期的に来訪して頂いている。</p>	<p>もっと地域資源との協働を行っていきたい。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>近隣デイでの入浴を行ったり、訪問マッサージや訪問理美容を受け入れ、本人の意向に添えるよう努力している。</p>	
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>いつでも協力してもらえる関係作りが出来ている。</p>	
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホームと契約している協力医療機関が、かかりつけ医とし2週間に1度診察を受けることが出来、常に相談する事が出来ている。希望があれば希望科にも受診介助を行っている。内科だけではなく、歯科医に往診や眼科や皮膚科への受診の支援を行っている。入居前からの馴染みの医院へ通っていただけるように働きかけている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	メンタルクリニックへの受診支援を行っている。日頃の様子をメモにまとめ医師へ状況報告を行い指示を仰いでいる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており健康管理相談する事が出来る様になっている。服用管理、処置、リハビリ、必要があれば点滴も行っている。同法人内の看護師の拒力も得られる。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	積極的に早期退院に向け、ご家族や病院関係者と連携をとっている。退院後、リハビリなども含め、早期に元の生活に戻れる様に支援している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、終末期のあり方について指針を作成し、ご家族に説明し同意を得ている。見取りに関するアンケートを行った。そのアンケートで情報の共有が出来ており、その上で現在の生活支援を行っている。ホーム内で看取りの経験あり。		重度化した場合、早い段階から話し合う場を設け取組んで行きたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の身体状況や残存機能を把握し支援に取り組んでいる。職員の連絡網が作成されており、主治医への連絡先も決まっている。ホーム内で看取りの経験あり。		今後に向けて、ターミナルケアについて職員間でも話し合い、職員一人一人が把握し、共有できる様に努めたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居先での環境の変化によるダメージを最小限にできるよう情報提供している。 可能であれば転居先への訪問も行っている。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	出来る限りプライバシーの確保を意識して対応しているつもりではいるが、難聴の方が多いため、つい大声で声かけしてしまい、反省すべき点もある。 敬意を表し、言葉使いや話し方に注意しているが、職員によっては出来ていないことも見受けられる。 周りや本人が聞いて嫌と思う言葉をかけない。 特に申し送り時などは注意している。		何気なく言った言葉が利用者の耳に入る事のないように職員間で気をつける。 ケース記録が居間に放置されたりする行為がみられる。 個人情報の管理の徹底。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者によって、希望の表出に時間を要するので、言葉や表情を読み取り判断し自己決定できる様努めている。 知らないうちに職員本位で決めてしまう場合もあるが本人の言葉を傾聴し、利用者本位の支援に努めている。		理想と現実を理解し職員一丸となって支援していく必要がある。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ利用者、一人一人のペースに合わせた過ごし方や時間を大切にしている。個々のペースに合った支援が望ましいと思うが、決まりや都合を優先したり、気持ちにゆとりがないため、つい自分のペースになりがちになる。 1日の始まりにおおよその希望がある場合はなるべく希望のある方から添ってケアしている。		入居前のアセスメントの把握を徹底し、どうすれば出来るのかを話し合う。日常の会話の中から手がかりを見つける。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	整容の支援の他、定期的に理容師に訪問してもらい、希望に合わせたカットや毛染め、パーマをしている。 起床時にはホットタオルでの洗面や整髪に努めており、不十分なところはさりげなく直している。	ご本人の希望を支援したい。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に利用者と一緒に出来る範囲内で準備や片付けを行っている。 月に一度は必ず外食を楽しんだり、嗜好に合った別メニューを提供したり、季節を感じて頂ける盛り付けやランチョンマット等で工夫をしている。 調理の方法等を、利用者の方に教えてもらったり、味付けを任せたりする。	本人の残存機能を生かし、常に声をかけ、行っていただけるようにする。 利用者の「好きな料理をや食べ物を知り、一緒に買い物から支援したい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は利用者の体調や嗜好を把握し、晩酌や好みのおやつ・おかずを楽しむ支援をしている。 支援の1つとして、買い物へ出掛け自己にて選んでもらっている。	
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄の能力やパターンを把握し誘導し、トイレでの排泄を促している。 必要な方には時間のチェックを行い、確認と排泄の間隔を把握し誘導に努め敏速な対応(清拭や更衣)をしている。 個々にあったパットの使用。	羞恥心に配慮した、さりげない誘導に努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は特に決めておらず、出来る限り希望に添うよう努め、困難な方には介助している。入浴剤の使用や、仲の良い方同士と一緒に入浴している。 拒否があった時は無理に入浴せず、時間やタイミングを改めている。場合によって中止する事もあるが足浴など形式を変えて清潔保持に努める。		入浴を拒否される方や不穏になられる方への援助方法に工夫が必要。 一人一人の入浴スタイルを把握していき、本人の希望に合うよう努める。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	出来る限り日中の活動を促し、生活のリズムを整え自然な安眠や休息が取れるよう心掛けている。寝具の整頓や清潔を維持し気持ちよく眠れるように努めている。 入床、起床は本人の状況によって変化している。睡眠薬を使用する事はまずなく、深夜番組を職員と楽しんだりする。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人一人の得意分野を生かし、生活の中で役割をもって頂けるよう支援している。 個別の楽しみ事(外出・趣味)を行うことで、気分転換を図り気晴らしの支援に努めている。 掃除、草取り、食事の後片付け、新聞まとめなど、残存能力や生活歴を生かした活動ができるよう工夫している。		一人一人の生活歴をしっかりと把握し、その人らしい暮らしを考えていく。 楽しみごとまでは支援できていない為、職員同士で話し合い利用者にとっての楽しみや役割を増やしていきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人のお金はホームでの預りとなっているが、本人が会計できるよう財布を渡すなど、能力に応じて一人一人がお金を使えるよう支援している。心配な方には「お金は有りますよ」と見て頂く。</p>		<p>能力に応じご本人がお金を持つ事が出来る支援に取り組んでいきたい</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>毎日の支援や全ての方の希望を叶える事の難しさはあるが、外出や散歩を行っており、カギをかける事のない開放感のある支援を行っている。冬季・夏季は外出する機会が減ってしまう。</p>		<p>出掛ける方が限られているため、もっとたくさんの方が外に出られる機会を作り、活気ある生活を送っていただきたい。 屋外だけでなく、季節に左右されにくい屋内を利用する。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>個別ではあるが、その方の趣味や好みの場所に行きたいと思う「思い」を実現できる様職員で検討し、プロ野球観戦、歌舞伎鑑賞、温泉旅行へ出かけた実現例もある。 家族との外出において、出掛け易いよう事前の準備等の支援をしている。 毎月、外食や行事計画を立て気分転換が図れるように努めている。</p>		<p>全ての方へは実施できておらず、勤務の調整や働きかけご家族の理解を得て実行していきたい。</p>
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の希望に応じて支援している。困難な本人にはスタッフが介助し連絡している。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問できる様に明るい雰囲気を作っており、職員は来訪者に対して歓迎している旨を伝えるだけでなく本人と気兼ねなく時間過ごしてもらえるような環境を提供している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者、職員は身体拘束を行わないケアを実践しており、危険の無い限りは自由に行動・活動して頂いているが、もっと寄り添ったケアを心がけている。 勉強会でも学ぶ事が出た。		今後、研修を通じて本人の行動を尊重できるよう、正しく理解し学ぶ必要がある。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常的に開放されており、自由に過ごしていただけるよう、鍵をかけないケアに対し理解できており、取り組んでいる。 外出される方には、充分な見守り、同行の支援をしている。 居室の鍵は利用者任せであるが、常に職員は見守りが出来るように努めている。		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロア-に居る職員が所在の様子や把握に努めている。 夜間は定時の巡視の際、又は利用者の状況に合わせ様子を見る等、把握に努めている。 外出時には携帯電話を所持しアクシデントに対応出来るようにしている。 早朝や夜間など職員が手薄になる時間帯は、無理な作業を行わず安全を優先している。		所在の様子や把握に努めているものの、所在が不明になってしまう事もあるので利用者の安全やリスクに関し話し合い改善していく。 危険回避を前提にその場その場での利用者様の動きを見る。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除く事はなく、利用者の状況や変化に合わせた管理方法に努めている。本人の能力に合わせ預る時は本人にも理解を得る努力をしている。それが出来ない場合は職員間で話し合ったり家族へ話をしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	起きてしまった事故に対し、報告書の記入、閲覧を行っているが、事故に対しての改善策や検討等、話し合う場を設ける。スタッフ同士の声の掛け合い、見守り、介助、同行により事故防止に努めている。応急手当、行方不明のマニュアルあり。術後の歩行介助などその時に合ったケアを実践し事故防止に努めている		一人一人の利用者のリスクを職員間で話し合い、対応策、改善策を統一する事で事故防止に取り組みたい。対応マニュアルをもう一度読み直し、理解する必要がある。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ホーム内でのそれぞれの対応に対してのマニュアル表が提示してあり、緊急時でも対応出来るようにしている。急変時の対応法をマニュアルとしてまとめているが定期的な訓練は実施されていない。勉強会も行われているが自由参加である。		スタッフ全員が対応できるよう、訓練や勉強会の機会を作りたい、また外部への研修、外部からの訓練など実施し徹底したい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内での避難方法、場所の取り決めは出来ている。避難訓練、設備点検を行っている。また有事のための食料品や飲料水の確保、避難時安全シールの作成、消防士からのアドバイスを受けている。		避難訓練の機会を増やし、地域の方や近隣の方にも知ってもらう必要がある。運営推進会議を通して、地域の方々への協力を求めているが、更なる努力が必要。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ケアプラン説明の同意と同様に、家族の考えをしっかりと取り入れている。 ホーム長を中心に家族と話が出来ている。入居時においてもその点はよく話し合われており、自由な生活を送るための関係作りが出来ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に利用者の変化に注意し「おかしい」と思った時はバイタルチェック表や職員間で情報の共有をし、ホーム長、管理者、看護師に連絡を取り指示を得ている。 食欲の減退、排泄状況、痛みの訴え、歩行状態、バイタルの異常、顔色、皮膚状態等の異変のチェックにより速やかに対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関してのファイルが作られており変更時には職員が周知しやすい様に申し送られている。服薬に関しては個別に用量や効用が記載された袋が用意されており、スタッフが管理し、副作用などの症状変化の観察に努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	各利用者の排便習慣を把握し、食べ物、水分補給、運動、腹部マッサージで改善されない場合は、必要に応じて主治医の指示で便秘薬を服用している。		可能な限り自然排便となるよう食事やおやつの工夫、体操などを心掛けて取り組む。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	その方の能力に合わせた声掛けや援助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。 毎食後、義歯を外し、口腔ケアを行う人もおり、その人に合った対応ができています。 デンタルサポートの定期検診や義歯の方はポリデントを2日に1度行っている。		毎食後の全員を口腔ケアは実行する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日のカロリー計算は行っていないが毎食の摂取量の確認と記録は行っている。 毎食後、食事量のチェックを施行、水分摂取の少ない人には水分補給の促しを行っている。 その時々に応じ、細かなチェック表を活用し、食べられない場合は好きな食べ物や、食べやすい物、食事の形態を工夫し栄養補給に努めている。		疾患など必要に応じてカロリー計算や栄養バランス、摂取量、水分量の把握に努めている。 カロリー管理までは出来ていないので今後の課題。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手拭きタオルは時間を決めて交換しており、なおかつ濡れたら替える習慣づけにしている。 うがい・手洗いは外出後行っている。 消毒は毎日行っており、マニュアルもありいつでも見られる所に置いている。 定期的に消毒を行い感染防止に努めている。 グローブの着用、手洗いの徹底、テーブルやノブなどよく人の手が触れる場所をアルコール消毒している。		感染に対する意識を高める為、勉強会を行い徹底へつなげていく。
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材の購入に気を配り買い置きに注意している。 毎夕食後、まな板、布巾の消毒を行い、食材も新しいうちに使うことを心かけ、衛生管理に努めている。 キッチンの掃除はもっと意識を持ち行うべきである。		キッチン内の衛生面に気を配り、清潔にする必要がある。 冷蔵庫の整理整頓を行う必要がある。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	スロープや手すりです心安した出入りが可能になっており、玄関は一般の家庭のような環境で花を置くなど季節が感じられる工夫をしている。 施設の雰囲気はなく、周りの家屋に溶け込んでいる。 ホームの庭にはベンチが置かれており、憩いの場となっている。		昨年は出来なかったため、利用者と一緒に花を植えたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの庭には、季節を感じる事の出来る花や木があり、どこからも外の景色が見える様な工夫に心がけ楽しむ事が出来る。又、生活感を自然に取り入れられる食事の匂い、音も感じられる。居間の壁やエレベータ内、階段等に季節の貼り絵や絵等の工夫により季節感を感じてもらっている。 家族から送られた花や、節句の飾りなどで家庭らしい雰囲気作りが出来ている。 庭には四季折々の花々が咲き季節が演出されている、暖炉もあり冬になると薪もくべられ温かみがある。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分にはソファがおかれ利用者同時で過ごせる空間となっており、1階にはマッサージチェアが置かれ、のんびりと過ごせる工夫もされている。 居間においては気の合う同士が会話を楽しんだり、一人で自分の好きなことに夢中になったりそれぞれ自由に過ごして頂いている。 時折配置換えをしたり、庭にはベンチを置き、リビングにはソファを置く等ゆったりとくつろげる空間を作っている。 居間と繋がっているが和室は少し独立した空間になっており落ち着いて過ごす事ができる。		和室があるので上手く活用したい。
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みの物を持ってきてもらえるよう働きかけており、その人らしさが充分に出ている方もいる。 本人のベッドを持ち入れたり家族やホーム内での写真等を壁に貼ったり、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。 居室はご本人に任せており、職員があまり介入しないよう配慮している。 火の使用は職員の付き添いとなるものの仏壇や位牌、本人や家族の希望するものが置かれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一日を通し決められた時間や掃除の際に居室の確認を行っている。各居室は朝の起床後、カーテン、窓を開け空気の入換えを行っている。居間においても居室同様、こまめな温度・湿度調節を行っている。 フィルターの掃除を月に一度行っている毎日換気を行うだけでなく、臭いやおどみがないように心掛けている。		ポータブルトイレを使用している方の居室の匂いに関し改善できるよう努める 巡視時に簡単な清掃を行うなどの工夫が必要。リネン類の点検を行う取り組みを始めた。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の解消やスロープ等、危険回避や身体機能を活かした環境になっている。 筋力が低下しないように自己でできる事を促している。 共同のものでは使いづらい場合は体格に合わせた物を購入し使用しているが、高さを細かく調整できるものではないので若干の使いにくさは残るが工夫はしている。		行動の予測ができるようにする。 調整可能な備品の購入
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	洗濯や食事作り、食器拭き等出来る事はご本人にして頂く様に支援している。 声かけや援助を行う際、噛み砕いた表現を使うなど、力に合った関わりを行っている。 利用者同士で助け合う働きかけをすることで混乱や失敗を防ぐだけでなく互いに支え合う暮らしを実現できるよう工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭の花壇で花を植えたり、摘んで自室やリビングに生けたりして楽しんでいる。 草取りやごみ拾い、日向ぼっこを楽しんでいる方もおり、思い思いに活用できる場になっている。 また、おやつを庭で食べたり、餅つきやバーベキューの場として利用されている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の業務にあえてタイムスケジュールを持ち込まず、入居者自身が今やりたいことを可能な限り実現し安楽な生活に結び付けようと懸けている。職員が日々の関わりの中からその人がその人らしく生活できる空間作るために必要なことに気づく事を大切にしている。気づきを食印鑑で共有し検討する事で上記の空間が実現されている。